



# BETHEL通信

## 2024年12月号（第257号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 Tel089-925-5000  
ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>

### 最近の学び（人との対話、聞く力）について

がん看護専門看護師の上杉です。最近学んだことについて書かせていただきます。

先日組織におけるリーダー育成に関する本を読む機会がありました。

「聞くことの本質は相手を理解すること」であり、もう理解しているという思い込みがあると「相手をもっと理解しよう」という意識がなくなり、その人の可能性を引き出す機会を失ってしまう（國武大紀著、「聞く力」こそが最強の武器である、フォレスト出版、2019年）という文章に目が留まりました。リーダー育成のための内容なのですが、日ごろの私のがん看護にも活用できると感じました。患者さまやご家族は闘病によって体力や気力が下がっている場合が多く、さまざまな葛藤の中におられます。勝手な思い込みで相手をわかったつもりになるのではなく、もっと理解しようという思いを持って聞いていくことが大切だと改めて感じます。

なお、この本によると、優れたリーダーがやっている3つの聞く秘訣、①相手が話しやすい場を作る②相手が返しやすい球を投げる③相手の話を遮らないが書かれていました。①と③はなんとなく出来るように思うのですが、②相手が返しやすい球を投げるについては対話技術を磨かないといけないような気がしました。コツとしては、相手が話しやすい「つなぎ言葉」を使うことだそうです（例としては「そうだったのだね、たとえばどんなこと？」をタイミング良く使う）。

また先月（10月）金沢市で開催された第7回日本エンドオブライフ学会に参加しました。その中で、「死を前にした人の悲しみと覚醒：人を活かす対話を求めて」というテーマで岡田 圭氏（前ニューヨーク訪問看護サービス・ホスピス緩和ケア、終末期スピリチュアルケア・プログラム・マネージャー/コロンビア大学「死に関するセミナー」準会員）のお話に興味を湧きました。「人と人との対話とは、人が共にいること。関係性の中で、体が何かを感じて、向こうが話すことに対し私が思い出すこともある。いろんなことが人と人の間に起こる。相手を客観的に分析、実証する対象としてではなく、目の前の人との対話で起きる固有体験に意を注ぐ、相手を認め、共有、継承する、その体験を重んじる…」とありました。多くの対話の中で凝集された「英知」を聞かせていただきました。

これからも学ぶ機会を大事にして日々活かしていきたいと思っております。

（がん看護専門看護師 上杉和美）



## 台湾旅行



この夏 休暇をいただいて、台湾旅行をしました。4泊なので、台北中心です。

松山空港から桃園空港についたあと、台北駅まではMRTという電車、そこから九分というところには、バスで行きました。停留所では、電光掲示板であとどれぐらいで何番のバスが来るかが表示されます。あと5分くらいのところで、待っている方向が違うということに気づき、慌てて道路を渡って向かいの停留所に向かいました。

九分では、賑やかに飲食店や土産物屋さんが並んでいます。通りを歩いていると、予約した宿舎の人が、私たちを見つけました。観光地の人からすると、日本人は、すぐわかるようです。通りは独特のにおいがあるのですが、行ったり来たりが何となく楽しいです。少し探すのに手間取ったのですが、「千と千尋の神隠し」のモデルになった茶館も見してきました。オカリナの店があって、「いつも何度でも」のメロディが流れてきます。思わず立ち寄って、手のひらサイズのオカリナを6個も買ってしまいました。宿舎の人のお勧めの店で食べたタロイモの団子もおいしかったです。

2日目は、九分から台北に戻り、漢方屋さんが並ぶ迪化街<sup>てきかがい</sup>を歩きました。晩ご飯はホテルの近くの餃子屋さんで揚げ餃子を食べましたが、なかなかおいしかったです。



3日目は、昼は故宮博物館に行ってきました。MRTとバスを使います。ここでは知らないおじさんに電車について何か尋ねられ、外国人だからわからないと答えると、外国人だということは見てわからなかったと言われました。博物館は展示物も多く見て回るのに何時間もかかります。代表的な展示物は、「翠玉白菜」(虫がついている白菜の彫刻)。19cmくらいで大きさはコンパクトなのですが、白菜についているキリギリスやイナゴなども細かく彫られています。ホテルへの帰りには士林街路の夜店を見て歩きました。人がとにかく多かったです。暑い中、屋台でスイカジュース、パイナップルジュースなどを飲みました。晩ご飯として、肉まん、チャーシューまんなどを頂きましたが、気分的なこと

もあるのか、これもまたおいしかったです。

4日目は動物園と、そこからロープウェイで30分くらいかけて、猫空<sup>まおこん</sup>という台湾を一望できる場所に行ってきました。動物園は規模が大きく、パンダ、インドゾウ、アフリカゾウ、丹頂など何でもいるように思えました。猫空へロープウェイのゴンドラに揺られて4キロの行程に行くのも楽しかったです。そこでは散歩道を歩いて、ハイキングも楽しみました。

5日目は、朝6時半のフライトなのでどこにも遊びに行くことはできません。ホテルのタクシーで桃園空港まで送ってもらい、空港内で買い物をしました。

印象として、台湾の人たちは待たせるようなことがあっても怒らないし、穏やかで、列などもきちんと並んで、大変気持ちよく旅行ができました。機会があれば、また訪れたいなと思いました。



( 内科医師 大西 哲史 )



## 「観月祭で芋炊きを行いました」



コロナ禍も落ち着き、今年度は10月17日に4階病棟で観月祭が行われました。会場では芋炊きやお団子を用意し、秋の訪れを感じる穏やかなひと時となりました。

愛媛の秋の風物詩「芋炊き」ですが、大洲市が発祥でおよそ350年前(江戸時代)からこの地で親しまれている郷土料理です。観月祭開催にあたり栄養課では芋炊きを調理・提供いたしました。

芋炊きは地域や家庭によって加える具材が多少異なることもありますが、今回は定番の鶏肉、愛媛産の里芋、椎茸・・・などを使って調理しました。大量調理を行う厨房では大きな鍋や釜を使って調理を行いますが、学校などで食べた給食のカレーなどの煮込み料理がおいしいと感じたことはありませんか？実は大量調理では一度に加える材料が多くなることで熱を蓄える力が強くなり、長い時間をかけてゆっくり加熱される所においしさの秘密が隠されています。

今回の芋炊きもたくさんの食材がゆっくり加熱されることで肉は柔らかくなり、野菜の甘みが煮汁に溶け出るため食材本来の味が引き出されています。また旨味もたっぷり、肉からは「イノシン酸」野菜からは「グルタミン酸」というそれぞれ異なる旨味成分が合わさり、より強い旨味を感じるおいしい芋炊きに仕上がりました。味付けや加熱具合など試行錯誤し、栄養課の真心こめて調理した芋炊き…観月祭会場では「おいしい」と言っていただけてとても嬉しい気持ちになりました。

12月はクリスマス、年末年始と行事食を楽しむ機会が多い月です。入院患者さまに日々のお食事やイベント食で四季の移ろいを感じていただいたり、「おいしい」と言っていただけるような給食づくりを目指してこれからも日々精進して参りたいと思います。



観月祭での芋炊き

( 栄養士 平山 美沙 )

## 外来診療日のお知らせ

◎豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

12月11日（水）、12月25日（水）

◎12月の休診はありません（11月25日現在）



松山ペテル病院では、接遇目標・医療安全推進目標をかかげています

### 12月 接遇目標

二〇二四年 十二月の接遇目標

広めよう  
あいさつから始まる  
みんなの笑顔

配属委員会  
接遇委員会

接遇委員会

### 11・12月 医療安全推進目標

氏名(フルネーム)  
ID番号  
生年月日

11・12月医療安全推進目標

医療安全委員会

## 新人紹介

みよし ゆうこ  
三好 結子

配属部署：3階東病棟

職 種：看護師

抱 負：一生懸命頑張ります。

よろしくお願ひします。



ふるの まりこ  
古野 真理子

配属部署：施設管理課

職 種：事務職

抱 負：早く仕事をおぼえて皆様の

お役に立てる様がんばります！



## Happy Christmas!



- ・ 投函箱を外来・各病棟に設置しています。皆様のご投函をお待ちしております。
- ・ 『ペテル通信』について、ご意見やご要望を「ご意見箱」へお寄せください。
- ・ 掲載中の写真についてはご本人様、ご家族様の許可を得ています。

発行日 2024年11月25日